

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>東京書籍(新編 新しい数学 ～MATH CONNECT 数学のつながり～)</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り返し学習ができる問題や典型的な誤答例がある構成で、知識及び技能が習得できるように配慮がなされている。</li> <li>・ 「数学的な見方・考え方」を働かせ、数学的活動を通して考察する力や数学的に表現する力が高まりやすいように工夫がなされている。</li> <li>・ 問題解決の過程を振り返って評価・改善する態度や「数学的な見方・考え方」を働かせる態度が養えるように配慮がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) つまづきへの手立てや補充問題を充実させたり、章末問題を段階別に設けたりするなど、自己調整しながら学習できるように配慮がなされている。</li> <li>(2) 身近な事象を取り上げて、章全体で問題発見・解決のサイクルを回しながら行うことで、興味・関心をもち学べるように工夫がなされている。</li> <li>(3) 問題発見・解決の過程を重視した数学的活動に取り組むことで、問題発見・解決能力を高めることができるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 基礎的・基本的な内容の理解をより確かなものにし、問題解決で働かせた「数学的な見方・考え方」を他の問題で生かせるように配慮がなされている。</li> <li>(5) 色覚特性に適応するデザインや見やすく読み間違えにくいフォントを使用し、分かりやすく読みやすいように配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各章の扉において、育成を目指す数学的に考える資質・能力が明確になるように工夫がなされている。</li> <li>(2) 既習事項を関連付けたり、系統化したりすることで、問題解決で働かせた見方・考え方や表現力が高まるように配慮がなされている。</li> <li>(3) イラストの生徒の会話や、各章での利用の問題での見出しによって、「数学的な見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的な活動を促すように配慮がなされている。</li> <li>(4) 学習に関連した読み物や他教科と関連のある題材、数学を社会に活用している人を紹介し、それらに関わる発展的な問題を示すことで、数学のよさや有用性を実感できる工夫がなされている。</li> <li>(5) 生徒の問題意識を提起する場面において、二次元コードを配置するなど、生徒の問題理解や追究に生かせるように工夫がなされている。</li> <li>(6) □の囲みや「虫眼鏡マーク」で、基礎的・基本的な知識や問題解決のときに大切にしたい見方・考え方が明確になるように配慮がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題発見・解決の過程を提示し、知識及び技能が身に付き、思考力、判断力、表現力等が高まるように工夫がなされている。</li> <li>・ 単元末に、単元を通して働かせた「数学的な見方・考え方」を振り返ることができるような配慮がなされている。</li> </ul>

<div style="text-align: center;">発行者名</div> 採択基準	大日本図書（数学の世界）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識及び技能が身に付けられるように、既習事項と関連させ、繰り返し学習ができるよう配慮がなされている。</li> <li>・ 事象を数量や図形及びそれらの関係に着目して、論理的、統合的・発展的に考察できるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 数学を学ぶよさ、多様な「数学的な見方・考え方」を実感し、よりよく物事を解決していく態度を養えるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">             本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等           </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各節の導入場面では、事象を図式化したり、具体物操作や帰納的に考える場面を設けたりしており、既習事項を用いて問題発見・解決する意識を促す工夫がなされている。</li> <li>(2) 「考えよう」、「めあて」という流れで興味・関心を喚起し、複数のキャラクターの考えや「Q1」、「判断しよう」等で自ら「数学的な見方・考え方」を働かせることができるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 働かせる「数学的な見方・考え方」の例示があり、主体的・対話的に学習を進める配慮がなされている。</li> <li>(4) 基本的な内容の理解をより確かなものにしたり、問題解決で働かせた「数学的な見方・考え方」が他の問題で生かせたりする工夫がなされている。</li> <li>(5) 学習の流れが捉えやすい紙面構成、効果的な図で、興味・関心が高まるように配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">             「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価           </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 知識及び技能を、「数学的な見方・考え方」を働かせながら身に付けることができるような学習の進め方への配慮がなされている。</li> <li>(2) 数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動等を通して、身に付けた知識及び技能を活用できる構成となるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「活動」の中で、「数学的な見方・考え方」を促す多様な考えをキャラクターが示しており、事象を論理的、統合的・発展的に考察できるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 全ての領域において、他の領域と関連付けて基礎的・基本的な定着問題があり、学習内容を補充・発展できるように配慮がなされている。</li> <li>(5) 各学習の「活動」には、キャラクターの考え方が挿絵で載っており、生徒が追究の見通しをもち、主体的に取り組むことができる工夫がなされている。</li> <li>(6) 重要となる学習内容のまとめは、枠で囲み強調する配慮がなされている。各章で「章をふり返ろう」が設けられ、まとめや評価が明確になるように配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題解決型の学習の流れとなっており、様々な「数学的な見方・考え方」を働かせながら言語活動ができるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 数学を学ぶことの意義や有用性が紹介され、日常生活や社会と関連させて興味・関心を高められるよう配慮がなされている。</li> </ul>

<div style="text-align: center;">発行者名</div> 採択基準	学校図書（中学校数学）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項を振り返りながら基礎的・基本的な内容を繰り返し学習し、知識及び技能が習得できるよう配慮がなされている。</li> <li>・ 既習事項を基にして論理的に考察し、数量や図形の性質を見いだし統合的・発展的に考察できるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 身の回りで数学が役立っている場面を取り上げ、生活や社会に生かそうとする態度を養えるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「〇〇さんがこのように考えて作った式を説明しよう」、または、「〇〇さんとは違う考えで式を作りましょう」など、様々な考え方を生み出せるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 単元の中の「Q」において、問題を見付け、様々な方法を予想して問題を解決し、新たな課題を見付けられるよう、内容構成への配慮がなされている。</li> <li>(3) 日常の事象から数学を見いだし、生徒が目的意識をもって、主体的・対話的に学習できるように、展開の工夫がなされている。</li> <li>(4) 扉の前の振り返りのページ、振り返りのための二次元コード、単元末にできるようになったことをチェックするページなどがあり、既習の学習内容を振り返れるように工夫がなされている。</li> <li>(5) 例題では、符号や計算の順序など、計算の際に注意すべきところに色を付けてあり、配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各単元とも、既習内容を活用して問題を解き、生活に生かしていくという流れになるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 章の配列が生徒の発達に即して系統化されており、図、式、説明なども理解の手助けとなるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) どのような「数学的な見方・考え方」を働かせればよいのか示されており、友達と関わりながら筋道を立てて論理的、統合的・発展的に考えられるように配慮がなされている。</li> <li>(4) 各章のまとめの問題の後に「深めよう」のページがあり、領域横断、教科等横断的な学習に取り組むことができるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 「用語・記号の由来」のコラムや、身の回りにある建造物などの写真を取り上げたり、二次元コードを配置し、ICTを活用したりして指導に生かせるように配慮がなされている。</li> <li>(6) 各節の最後に「どんなことがわかったかな」でまとめ、また新たな「次の課題へ」とつながっていくような展開となるように工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常事象から数学の問題を見出し、「数学的な見方・考え方」を働かせながら解決する力を付けられるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 「数学的な見方・考え方」を働かせた対話が明示され、論理的、統合的、発展的に学習に取り組めるよう配慮がなされている。</li> </ul>

<div style="text-align: center;">発行者名</div> 採択基準	教育出版（中学数学）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習した知識及び技能のよさを具体的な言葉で示し、問題解決に向けて活用できるよう工夫がなされている。</li> <li>• 日常生活や社会の事象と数学の事象をつなげ、数学的活動を通して思考力、判断力、表現力等が育成されるよう配慮がなされている。</li> <li>• 身近にある問題を取り上げ、問題解決の過程を意識しながら、よりよく物事を解決していく態度を養えるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 問いのつながり方や働かせたい「数学的な見方・考え方」について整理されており、どのような学習場面でも意識できるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 問題解決への学習活動の流れを示し、試行錯誤しながら、数理的に捉えていく過程を体験することで課題解決力の高まりを実感できるような配慮がなされている。</li> <li>(3) 日常生活の事象を数学化して捉えたり、自ら問いをもって主体的・対話的に学習したりできるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 各章の前の「学習する前に」と巻末の「学びのマップ」においてこれまでの既習内容とのつながりを確認でき、遡って学び直しができるような工夫がなされている。</li> <li>(5) 判読しやすい配色や、映像で確認したい箇所に二次元コードが配置されるなど学びやすい紙面になるよう配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各単元で具体的な場面を導入とし、定着問題や振り返り、誤答例などの個々の生徒の学習状況に応じた配慮がなされている。</li> <li>(2) 数学で用いる考え方を提示し、根拠を基にしながら考えたり表現したりすることのよさが分かるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 基礎的な概念を理解した後に、学んだものを活用しながら論理的に考察をして課題を解決し、生活に生かそうという流れを意識した構成になるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 既習内容を活用させながら取り組ませる課題や、基礎・基本の定着を図る問題など個に応じた学習に生かせるような配慮がなされている。</li> <li>(5) 数学的な用語の索引を巻末に設けたり、ノートの取り方のポイントをさし絵で載せたり、二次元コードが掲載されたり等、個々の生徒に応じた学習に生かせるよう配慮がなされている。</li> <li>(6) 各章の章末の問題においてそれぞれの評価規準を示し、個々の生徒が自己評価できるよう工夫がなされていたり、各章の振り返りについて例を掲載したりする配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習をつなぐ統一的・発展的な問いを示し、生徒が課題意識を持続しながら主体的に学習を進められるよう工夫がなされている。</li> <li>• 章扉に日常生活や社会の事象を、章末にその詳細を掲載し、数学の有用性が感じられるよう配慮がなされている。</li> </ul>

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">啓林館（未来へひろがる数学）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な例や既習事項と関連付けたり、補充問題で確認をしたりするなど、知識及び技能を確実に習得できるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 日常事象や数学の場면을「数学的な見方・考え方」の観点から捉え、論理的、統合的・発展的に考えられるよう配慮がなされている。</li> <li>・ 数学を積極的に生かそうとする態度や、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">             本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等           </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 具体から抽象、基礎から発展へとつなげ、基礎的・基本的な内容をスモールステップで展開することで、多様な考え方や数学的な処理の仕方を学べるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 問題発見と解決の過程をステップ方式で示し、自分で問題を発見したり、解決の過程を振り返って深めたりすることができるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 身の回りや数学の事象から見出した問題を、既習事項を活用して考え、表現する活動を取り入れる配慮がなされている。</li> <li>(4) 「ふりかえり」での既習内容の学び直しや、習熟度に合わせた章末問題や巻末の「学びをふりかえろう」「力をつけよう」での反復学習ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(5) ユニバーサルデザインフォントの使用、意味や文節による改行など、様々な生徒の特性を踏まえた学習への配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">             「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価           </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) まとまりのある内容ごとに単元が構成され、数学を学ぶ意義や有用性が実感できるような構成になるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 関連する既習事項や、前後のつながりを重視し、生徒の発達段階に合わせ系統的に学習を進められるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 生徒主体の学習となるように、問題発見・解決の過程で働かせる「数学的な見方・考え方」を示し、繰り返し触れることで、「数学的な見方・考え方」を働かせることができるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 巻末の「数学広場」の「力をつけよう」には補充問題や入試問題、「学びをいかそう」には身の回りで活用する課題が掲載されており、個に応じた指導に生かせるよう工夫がなされている。</li> <li>(5) 用語・記号は明確・簡潔に表すのに有効なものを厳選し、学習場面と関連した写真や、説明を補うための図を配置するなど学習の理解を助ける配慮がなされている。</li> <li>(6) 章末問題のチェック欄での生徒自身の自己評価、巻末の「章のあしあと」での自己の学習の振り返りなど、自己評価や観点別評価の設定に役立てることができるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題を発見・解決し、その過程を振り返って評価・改善を図ったり、新たな問題を設定したりできるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 「たいせつな考え方」として「数学的な見方・考え方」を明確にし、数学的に考える資質・能力が育つよう工夫がなされている。</li> </ul>

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	数研出版（改訂版 これからの数学）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項の適切な振り返りを基に、知識及び技能を習得できるよう配慮がなされている。</li> <li>・ 身近な事象の中の数学について考える場面を設定し、数学的活動を通して思考力、判断力、表現力等が養える工夫がなされている。</li> <li>・ 身近な題材や他教科と関連する題材を通して、興味・関心を喚起し、主体的に学びに向かう態度を養う配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「学んだことを活用しよう」では、既習事項を基に数学的に表現したり伝え合ったりすることを通して、「数学的な見方・考え方」が働き、豊かになるように配慮がなされている。</li> <li>(2) 身近な題材で興味・関心を喚起し、生徒と教師の対話を基に自らの課題や解決へ向けての見通しをもち、その過程や結果を評価・改善する活動ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「社会で生きる数学」でSDGsを取り上げ、主体的・対話的に学びを生かそうとする態度を養える配慮がなされている。</li> <li>(4) 章の前や途中の「ふりかえり」で、学習内容に関連する既習事項の系統的な振り返りや体系的に知識及び技能を確認できるように配慮がなされている。</li> <li>(5) 配色やデザインにより関連がある部分のつながりや図形の見方が視覚的に分かりやすくなるよう工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各章の学習に入る前に、その章に関連する既習事項を確認できるように配慮がなされている。</li> <li>(2) 「ふりかえり」では、関連する単元を示して復習しやすく、知識及び技能が身に付くよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 身近な事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、既習事項を根拠として問題解決の筋道を立て、論理的、統合的・発展的に考えられるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 章末や巻末の練習問題で、章の内容を確認する問題と発展的な問題を配置し、個の力や個々の関心に応じて内容を補充・発展させられるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 数学的な用語の索引を設けたり、題材に適した写真や二次元コードから視覚的な理解を支援したりして、個々の主体的な学びを支える指導ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 「ノートづくり方」では、まとめ方や学びの振り返り方を指導できたり、「やってみよう」では、問いかけにより評価を明確にできたりする配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ふりかえり」により関連する単元を示し、系統的に知識及び技能が身に付くよう配慮がなされている。</li> <li>・ 身近な題材について学習したことを活用する場面があり、思考力、判断力、表現力等が身に付く工夫がなされている。</li> </ul>

種目（数学）

<div style="text-align: right; padding-right: 5px;">発行者名</div> 採択基準	日本文教出版（中学数学）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各単元、教材のねらいを明確にし、既習内容と関連させながら知識及び技能が身に付くよう工夫がなされている。</li> <li>・ 数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し合う学習を設け、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう配慮がなされている。</li> <li>・ 「学びに向かう力を育てよう」で具体的な活動を明示することで主体的に学習に取り組む態度を養えるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 一つの問題から生徒の多様な考え方を生かす学習活動を設け、発達の段階に応じて数学的な処理の仕方を学べるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 身近な事象を問題として扱うことで、生徒が自身の経験や既習内容と結び付け、数学を学ぶよさや有用性を実感できるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「学び合おう」では、問題解決の過程が明示され、イラストなどの例示で、主体的・対話的な学びを促す工夫がなされている。</li> <li>(4) 単元前に関連する既習内容を振り返る場面が設けられたり、節末、章末、巻末で繰り返し学習ができるようにしたりするなど、学び直しができるように配慮がなされている。</li> <li>(5) カラーユニバーサルデザイン（CUD）を使用するとともに、色以外にも情報が伝わるよう配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 導入で既習内容と関連付けた学習活動を促し、基礎的・基本的な内容の習得を図った指導ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 章の構成の一貫性、扱う題材に関連性をもたせ、生徒の発達の段階に応じて段階的に学習が深まるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 働かせる「数学的な見方・考え方」を明確にし、生徒の思考に沿った学習を示したり、確認する場面を設けたりすることで、論理的、統合的・発展的に考えられるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 「基本の問題」「章の問題」では基礎的・基本的な定着問題、「とりくんでみよう」「数学マイトライ」などでは、より発展的な問題を扱い、個に応じた指導ができるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 動画などの視覚的支援が必要な箇所に二次元コードが掲示されたり、キャラクターの吹き出しで生徒に追究の見通しをもたせたり、学習指導に生かしやすいよう配慮がなされている。</li> <li>(6) 「ふり返りシート」「対話シート」では、理解の確認や学習したことよさに気付くことを促す質問があり、まとめや評価の観点が明確になるよう配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各単元で学び直しを重視した内容構成により、基礎的・基本的な内容の習得を図ることができるよう配慮がなされている。</li> <li>・ 「問題解決の過程」や「表現の例」の提示などで、生徒が主体的に学習に取り組んでいけるよう配慮がなされている。</li> </ul>